

こども未来部長目標

こども未来部長 市来 広美(いちき ひろみ)



当部の仕事をもって貢献しているSDGsの主なゴール



こども未来部の仕事

こども未来部は、こども政策課、こども支援課、こども福祉課、青少年課、保育幼稚園課、こども家庭センターの6課で構成され、子育て家庭への経済的支援、母子保健・子育てに関する相談、放課後児童対策、保育園・幼稚園等に関すること、就学前の障害児が通う施設及びこども支援センターの運営などを行っています。

こども未来部の令和6年度の目標

こども未来部は、こどもを中心としたまちづくりを進めていくため、こどもの視点に立ち、こどもの幸せを第一に考え、「第2期子ども・子育て支援事業計画」に基づき、親子の絆を深める切れ目のない子育て支援、特に寄り添いや支え合いが必要な子育て家庭の支援、保育園や児童クラブの待機児童対策などを進めます。また、現行の「子ども・子育て支援事業計画」は令和6年度が最終年度であるため、次期計画を策定します。

目標達成に向けた重点事業

No	事業項目	事業の概要	事業の目標	事業の達成実績
1	切れ目のない子育て支援に関する事業	子育てに関する孤立感や負担感の軽減のため、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援を実施します。	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠、出生の届出を行った妊婦・子育て世帯等に対し、不安や孤独感に寄り添う伴走型相談支援を実施するとともに、出産応援ギフト、子育て応援ギフトを支給します。 ・0歳児を養育する家庭へ、紙おむつをはじめとする育児に係る生活用品等を対象としたデジタルギフトを支給します。 ・子ども医療費助成について、更なる子育て家庭の経済的負担の軽減を図るため、対象年齢を現行の中学校3年生から、高校3年生世代(18歳)までに拡大します。 	
2	特に寄り添いや支え合いが必要な子育て家庭の支援に関する事業	関係機関と連携しながら、特に寄り添いや支え合いが必要な子育て家庭を支援します。	<ul style="list-style-type: none"> ・発達障害の疑われる不登校やひきこもりの児童が、社会へつながっていけるよう、全国に先駆けて、家庭訪問による早期のアプローチ及び療育的支援を行います。 ・母子保健部門と児童福祉部門を統合し、令和6年4月に開設した「こども家庭センター」において、0歳から18歳未満の児童、保護者及び関係者等から寄せられる、多岐に渡る相談に対応します。 	
3	子育てする環境整備に関する事業	<p>「所沢市子ども・子育て支援事業計画」に基づき、所沢市のすべての子どもたちが地域の中で安心して過ごし、健やかに成長できる環境づくりを進めます。</p> <p>また、現行の計画が令和6年度に計画最終年度を迎えることから、新たに国が定めたこども大綱を勘案した「こども計画」を策定します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度に実施したアンケート調査結果や子ども・子育て会議、庁内検討委員会、パブリック・コメントの意見を考慮し、計画を策定します。 ・地域型保育事業所の新設や、既存施設を活用した施設整備により、保育枠の確保を行います。 ・児童クラブの狭隘化や大規模化等を解消するため、学校施設の活用や、民設民営児童クラブの設置等を進めます。 ・公立保育園における使用済み紙おむつの処分について、保護者持ち帰りから、園での処分へ変更することにより、保護者及び保育士の負担軽減を図ります。 	